



株式会社エムアンドエムサービス
新型コロナウイルス対応
館内清掃ガイドライン

1、具体的な感染防止対策

(1) 留意すべき基本原則と各エリア・場面の共通事項

①留意すべき基本原則

- ・従業員と宿泊客及び宿泊客同士の接触をできるだけ避け、対人距離（できるだけ2 mを目安に）を確保する
- ・感染防止のための宿泊客の整理（密にならないように対応。）
- ・入口及び施設内の手指の消毒設備の設置
- ・マスクの着用（従業員及び宿泊者・入館者に対する周知）
- ・施設及び客室の換気
- ・施設内の定期的な消毒
- ・従業員の毎日の体温測定、健康チェック

②各エリア・場面の共通事項

- ・他人と共用する物品や手が頻繁に触れる箇所を工夫して最低限にする。
- ・複数の人の手が触れる場所を定期的に消毒する
- ・手や口が触れるようなもの（コップ、箸など）は、適切に洗浄及び消毒する又は使い捨てにするなど特段の対応を図る
- ・ユニフォームや衣服はこまめに洗濯する
- ・手洗いや手指消毒の徹底を図る
- ・宿泊客や従業員がいつでも使えるようにアルコール液を施設内（客室、風呂、共用トイレ等）に設置

(2) 各エリアごとの留意点

①入館時（ロビー等）

- ・入口及びロビー内に手指の消毒設備（アルコール等）を設置する
- ・入館の際に手指の消毒を依頼する

②エレベーター

(ボタンの操作)

- ・エレベーター内や押しボタンの頻繁な清拭消毒

(他の宿泊客との同乗)

- ・重量センサーの調整（少ない人数でブザーが鳴る）
- ・エレベーター内が過密状態にならないよう乗車人数を制限 等

③客室

(部屋のドアの開閉)

- ・ドアノブの清拭消毒

(部屋の設備 (※) への接触)

- ・客室清掃時に、消毒剤（洗剤・漂白剤等）を使って表面を清拭
- ※テレビ・空調のリモコン、金庫、部屋の照明スイッチ、スタンド、座卓、押し入れ、冷蔵庫、電話機、トイレ、水栓等

(部屋の備品 (※) への接触)

- ・コップ、急須、湯飲み等は消毒済みのものと交換。使用済アメニティは廃棄、館内用スリッパは使い捨てに変える又は消毒を徹底 等
- ※ドライヤー、座椅子、座布団、スリッパ等

(換気)

- ・空調機を外気導入に設定
- ・一定時間ごとに客室の窓を開けての換気を要請 等

④大浴場

- ・入場人数の制限

(更衣室)

- ・ドアノブ、セキュリティロック等の清拭消毒
- ・定期的なロッカーの清拭消毒
- ・浴場での貸しタオル中止、客室から清潔なタオルの持参を要請 等

(浴室内)

- ・備品等の清拭消毒
- ・浴室内の換気強化

(化粧台)

- ・ドライヤー等備品の清拭消毒、化粧品・ブラシ等は持参を要請 等

(休憩室)

- ・休憩スペースは、常時換気することに努める
- ・共有する物品（テーブル、いす等）は、定期的に消毒する
- ・水や飲料サービス機器のボタン等の定期的な清拭消毒 等

(従業員等の休憩スペース) ※感染リスクが比較的高いと考えられるため留意

- ・使用する者はマスク着用
- ・一度に休憩する人数を減らし、対面で食事や会話をしないようにする
- ・休憩スペースは、常時換気することに努める
- ・共有する物品（テーブル、いす等）は、定期的に消毒する
- ・従業員が使用する際は、入退室の前後にうがいと手洗いをする

(3) 清掃等の作業での注意点

(従業員が客室の布団上げ)

- ・マスクを着用し、使用後のリネン類は、回収後に人が触れないように密閉保管

(客室清掃)

- ・清掃時のマスク・使い捨て手袋の着用
- ・使用した浴衣、室内スリッパ等はすべて洗濯・消毒済みのものと交換
- ・使用済みタオルは、回収後に人が触れないように密閉保管し、洗濯・消毒
- ・ゴミはビニール袋で密閉して処理

(浴場清掃)

- ・浴室内の設備・備品を清拭消毒
- ・清掃時に換気し、完全に空気を入れ替える
- ・脱衣室内の設備・備品を清拭消毒、ロッカー内部も清拭消毒
- ・使用済みタオルは密閉保管し、洗濯・消毒
- ・浴槽水等の消毒の徹底

(館内清掃)

- ・市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃する
- ・通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、始業後に清拭消毒することが重要であり、ドアノブやエレベーターのボタン、階段の手すり、フロントデスク、ロビー内の家具、共用パソコンなどは、定期的にアルコール液で拭く
- ・手が触れることがない床や壁は、通常の清掃で良い
- ・自動販売機は自販機ボタン、取り出し口の頻繁な清拭消毒
- ・宿泊客用スリッパ等は使用後の清拭消毒、又は使い捨てに変更

(トイレ清掃) ※感染リスクが比較的高いと考えられるため留意

- ・便器内は、通常の清掃が良い
- ・不特定多数が接触する場所は、清拭消毒を行う
- ・トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ・ペーパータオルを設置するか、個人用にタオルを準備する
- ・ハンドドライヤーは止め、共通のタオルは禁止する
- ・常時換気をオンにしておくなど換気に留意

(4) 宿泊客の感染疑いの際の対応

- ・万一、発熱や呼吸困難、けん怠感など、感染の疑われる宿泊客がいる場合、客室内で待機し、マスク着用をお願いし、外に出ないようにお願いする（同行者も同様）
- ・事前に他の宿泊客と区分して待機する部屋等を決めておく
- ・食事も客室にお届けし他の宿泊客との接触を避ける。その宿泊客と対応するスタッフも限定する。対応時にはマスクを着用する
- ・保健所の「帰国者・接触者相談センター」に連絡し、感染の疑いのある宿泊客の状況や症状を伝え、その後は保健所からの指示に従う
- ・当日の宿泊者名簿を確認し、保健所への提出に備える
- ・館内の他の宿泊客への情報提供は、保健所の指示に従う

(5) 清掃チェックリスト

- ① 掃除の前にまず部屋の換気をしましょう
新鮮な空気を少なくとも 20 分循環させてください。可能であれば清掃中は全ての窓を開けたままにします。
- ② 掃除の前後はしっかりと手を洗いましょう
石鹸と水を使用し 20 秒間以上手をこすり合わせてください。
- ③ 掃除中は使い捨て手袋を着用してください
手袋は掃除のたびに捨て、手袋を外したらすぐに手を洗うようにしましょう。
- ④ ペーパータオル、消毒用不織布、その他使い捨て清掃用品を常備しましょう
繰り返し使える清掃用品の使用を希望する場合は、清掃後、素材に適した範囲で最も高い水温に洗濯機を設定して洗ってください。
- ⑤ 掃除後は消毒をしましょう
掃除とは、石けんや洗剤、水を使って、汚れや病原菌、不純物を除去することです。消毒とは、漂白剤やアルコールなどの化学物質を使って病原菌を殺すことです。両方を行うことが、感染拡大を抑える最良の方法です。
- ⑥ 頻繁に触れる表面は特に念入りに清掃消毒しましょう
照明スイッチ、ドアノブ、リモコン、蛇口のハンドルは消毒が必要な箇所のほんの一例に過ぎません。
- ⑦ ソファ、ラグ、カーテンなど柔らかいものも掃除をしましょう
目に見える汚れやほこりを丁寧に除去し、素材に適したクリーナーを使用してください。
- ⑧ 掃除のたびに掃除機のごみを捨てましょう
掃除機だけではなく、食器洗い機や洗濯機など、ほかの掃除用品も消毒しましょう。